

山の空大空襲

今から67年前の
1945年5月25日
太平洋戦争の最中、
青山表参道一帯も
空襲で焼け野原
になり、多くの方が
犠牲になりました。
毎年この日、青山の
善光寺本堂で、
13時から法要あり
可。また、本堂に向か
て午前の供養塔で
（火場の近く）お参り
かて下さる様に
なっています。

みずほ銀行側の
地下鉄×口の
後方に慰霊碑
もあり可。

活字部は
系井事務所の方の
文からお借りしました。

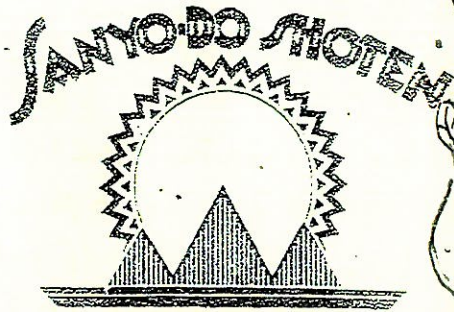


さて、この原画展ですが、開催期間中に
各会場で『夜は、待っている。』と
『ボールのようなことば。』2冊同時に
購入して下さったかたには、
5枚組ポストカードをプレゼントいたします。

山陽堂だより 33

2012年5月阜月

03-3401-1309



山陽堂書店

みずほの小山本屋

選りすぐりの言葉とともに

本のかたちになった、この素敵な画を
直接、みなさんに見ていただけたらなあと思い、
今回小さな展覧会を開催することになりました。

「小さいことばの原画展。」

酒井駒子、松本大洋、そして系井重里。

期間5月14日(月)~5月26日(土) 平日11時~19時
土曜日11時~17時 日曜日12時~17時

系井重里の「小さいことば」をあつめてつくった本に、
酒井駒子さんと松本大洋さんが絵を描いてくださいました。
おふたりの、すばらしい絵を、その原画を、
並べて展示したらとってもいいぞ、と思ったので
「小さいことばの原画展」をやってみることにしました。
全国のあちこちを、小さく回ります。

<「小さいことば」シリーズとは?>

系井重里が、ほぼ日刊イトイ新聞に書いた1年分の原稿と、
1年分のツイートのなかから、
心に残る短いことばを選りすぐって編集し、
1年に1冊ずつ出している本のシリーズです。
2007年の『小さいことばを歌う場所』からはじまり、
今年の『夜は、待っている。』まで6冊が出版されています。
また、今年は、過去の「小さいことば」シリーズから、
「若い人に読んでほしいことば」を厳選して再編集した、
文庫本サイズの『ボールのようなことば。』も
オルタナティブな1冊として出版されました。
発行元はすべて東京系井重里事務所。

「ほぼ日」の乗組員が

おふたりの装画をはじめて目にしたとき
「わああ…」と、うっとり沈黙していた女子たち。
「おおおおお。」と、沸いていた男子たち。
わたしはしっかりと覚えております。



系井重里さんの
本の中のことば

「信賴」の手がかりになる原画は、
「正直」と同じ材料でつくられてます。
「あんなおもしろい絵は見たことない」
「姉やな」
「……」
「夜は、待っている。」「より
おまえの背中に乗かって。」
「夜は、待っている。」「より
お前の歩みをじゃましていく」「おんがおんが」は、
おまえじゃないか?
「ボールのようないことば。」「より

みずほのあふれしことばよりお待ちしています

『ハッピーバースデー 3.11』

2012. 4月24日 ~ 5月11日

～あの日、被災地で生まれた11人の子と私たちと家族の物語～
5月8日火曜日6時から、山陽堂初のトークイベントが
開催されました。著者のコビウイター並河さんは、震災後の4月初頭、
被災地のボランティアを途方に暮れながらつづけているときに、
3月11日に生まれた赤ちゃんといるという話を偶然耳にし、なぜか
“その子に会いたい”と強く思いました。テレビや新聞では、3月11日に
亡くなった方の数ばかり返されていきました。その日、失われた
ものをけしやなかった。もうひとつの物語が生まれていった。と、
目から覚めろかな気持ちにさせられたのです。撮影と本の制作に
写真家の小林紀晴さんは、被災地に向かう前に髪を切り、
ひげをとり、並河さんに「魂と込めて撮ります」と
言えたと言います。展示を観てくれた男性が「この子と私の
うしろにTさんの人が見えますね」と言いました。写真家の小林
さんも本の中でこう書いていました。「小さな命と撮ることは、
同時に背陰にある多くの失われた命と撮ることだった。
そのことを銘記しながらカメラを構えた。彼らが光輝いて
見えるのは、その命によるからTさんと思う。」と。並河さんと
11人の赤ちゃんととの出会いをインターネットした一色さんとユニセフの
メッセージムービー「ハッピーバースデー3.11」のテーマソングをうたう
歌手のyaeさん4人のトーク終了後、30このキャプションを手に
みずみずしく黙々と捧げて、yaeさんにうたをうたいました。
マイクを通さないyaeさんのうたの声は、ここにはい子人びと、
この建物、その時間や空間を棄り去った母にかに
しあかに伝わり、ファミリー全体があたたかくつみこまれて
いるようにした。そして、そこにはトークをうたうをうたうを見つめ
くみこむ「ハッピーバースデー3.11」を、手で触れ読むこと
のできる紙の『本』という形にして私たちに見届け
てくれた飛鳥新社の編集者五十嵐さんかいました。



飛鳥新社 『ハッピーバースデー3.11』 1260円

著者の印税は、全額東日本大震災の復興支援に使われます。